

## 甲状腺内科



# バセドウ病がおこるしくみと 治療法について知りたい

45歳、女性。異常な発汗や動悸<sup>どうき</sup>、体重減少などがあり、更年期障害だと思い受診するとバセドウ病と診断されました。バセドウ病はどのようなしくみでおこるのでしょうか。治療法についても教えてください。(愛媛県 H)

# A

## 自己免疫疾患の1つ。 甲状腺ホルモンが過剰につくられ、 さまざまな症状を引きおこす



回答者

赤須医院(東京都)  
理事長  
あかす ふみと  
赤須 文人

バセドウ病は、「免疫の勘違い」からおこる病気です。私たちのからだには、細菌やウイルスから身を守る免疫というしくみがあります。ところがなんらかのきっかけで、この免疫が自分自身の臓器に反応してしまうことがあります。バセドウ病は、首の前にある小さな臓器、甲状腺がその標的となって、さまざまな症状を引きおこす病気です。

甲状腺は、からだの中で“車のエンジン”のような役目をしています。甲状腺ホルモンは代謝を調整し、からだを動かすためのエネルギーを生み出します。通常は、脳の下垂体が司令塔となり、「もう少し働いて」「少し休んで」と指示を出しています。そのおかげでエンジンの回転数はできるだけ一定に保たれ、必要以上に上がったたり下がったりしないよう細かく調整されています。

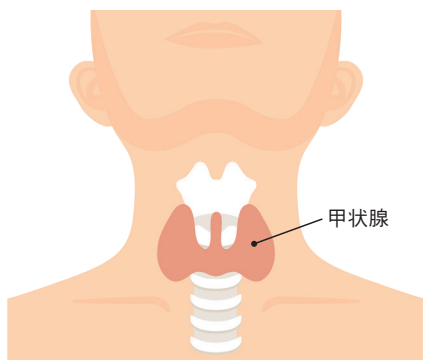
ところがバセドウ病では、からだの中に「甲状腺を刺激する抗体」ができてしまいます。この抗体は、いわば“勝手に取り付けられてしまったアクセル”のようなものです。本来の運転手(脳)の指示とは無関係にエンジンを回しつづけます。

を回しつづけます。

ここで大切なのは、からだには甲状腺に直接ブレーキをかける強いしくみがほとんどないという点です。脳は「もう十分です」と信号を出しますが、それは本来のアクセルを踏むのをやめるだけで、別のアクセルに支配されたエンジンは止まりません。こうしてホルモンが過剰につくられます。

その結果、動悸、発汗、手の震え、体重減少、疲れやすさといった症状が現れます。バセドウ病は、甲状腺が壊れている病気ではなく、免疫が誤ってアクセルを踏みつづけてしまう病気なのです。治療はこの“余計なアクセル”を抑え、回転を本来の状態に戻すことを目指します。

治療には3つの方法があります。もっとも多いのはのみ薬(抗甲状腺薬)で、全体の約75%を占めます。放射性ヨウ素(アイソトープ)治療が約15%、手術が約10%です。年齢や症状、合併症の有無、将来の妊娠希望などを考慮しながら、それぞれの人に合った治療法を選びます。



### 甲状腺ホルモンとは

甲状腺は、食事から摂取したヨウ素(ヨード)を材料に、甲状腺ホルモンをつくり、分泌・貯蔵する臓器。甲状腺ホルモンは心臓や胃腸の働きの活性化、体温調節、新陳代謝の促進など、生命維持に重要な役割を担い、体内では常に適切な量に保たれている。分泌量が過剰になると全身の代謝が異常に高まり、心臓の動きが活発になって、少し動いただけでも脈拍が上がる。反対に不足すると、強いだるさや眠け、食欲不振、極端な寒がりなどの症状が現れる。

からだや心の病気についての相談や健康に関する疑問をお寄せください。

ご相談は症状や経過を詳しく書き、住所、氏名(誌上ではすべて匿名)、年齢、電話番号、所属健保組合名(不明のときはお答えいたしかねます。個人購読の方は「個人購読」とお書きください)を明記して、返信用の1100円切手を同封のうえお送りください。ご質問は封書1通につき1件とします。現在入院中のご事情についてはご遠慮ください。また、医療機関や医師の紹介は行っておりません。なお、誌上回答以外は回答が届くまで数カ月かかることがあります。

### 健康相談の あて先

〒104-8104  
東京都中央区銀座1-10-1  
榎法研『ヘルスアンドライフ』健康相談室係

※住所、氏名、年齢、電話番号、所属健保組合名、症状、経過などの個人情報(誌上回答を含む)の提供は、本誌の編集・発行にのみ利用いたします。